

2026. 9. 10

静岡茶を起点に地域農業の新たな価値創造へ ～「生産」「販路」の両輪で実証実験を開始～

しずおかフィナンシャルグループ（社長 柴田 久）では、第2次中期経営計画「Xover2.0ーともに、未来へ」において、「共創・成長・挑戦」を基本戦略に掲げ、地域とともに未来をつくり、成長を続ける価値共創企業グループをめざしています。

このたび、地域産業の持続的な発展と新たな価値創造に向けた取り組みの一環として、静岡茶を軸とした農業分野の実証実験を開始しました。本実証実験では、生産データの活用による品質・収量の向上と、ティーツーリズムを通じた海外販路の開拓を一体的に進めてまいります。

1. 背景・目的

- 農林水産省が策定した「食料・農業・農村基本計画」では、農業者の減少や高齢化を踏まえ、地域農業の持続的な発展に向けた構造転換の必要性が示されています。しずおかフィナンシャルグループでは、こうした課題解決への第一歩として、地域を代表する産業である茶業を対象に実証実験を開始します。
- 茶業は、地域文化や観光、関連産業とも深く結びつく静岡県を代表する産業であり、地域経済を支える重要な役割を担っています。また、「静岡県茶業振興計画」では、生産力の強化や輸出拡大、静岡茶ブランドの確立と文化の継承を基本方針に掲げており、地域全体で茶業の価値向上に取り組むことが期待されています。
- しずおかフィナンシャルグループでは、こうした地域課題に対し、金融サービスの提供にとどまらず、多様なプレーヤーをつなぐ地域金融グループとして、生産者や専門機関、行政、関連事業者と連携しながら、地域産業の持続的な発展に貢献してまいります。

2. 実証実験の内容

- 本実証実験では、「生産」と「販路」の両面から、静岡茶の価値向上に取り組めます。

（１）生産

- ・ 静岡県立大学などの専門機関の協力のもと、生産者の茶畑において生産・加工データを取得し、品質や収量との相関を分析します。
- ・ その結果を活用し、国内外の市場ニーズに応じた品質を安定的に実現する生産モデルの構築を目指します。

（２）販路

- ・ ティーツーリズムを通じて海外バイヤーを産地へ招き、茶畑や製茶工程など産地ならではの体験価値を提供することで、静岡茶ブランドの価値向上を図ります。
- ・ また、海外との継続的なネットワークを構築し、安定的・長期的な販路拡大につなげます。

【概要】・実施期間／2026年9月～2029年3月（予定） ・実施地域／富士山麓地区を中心

3. 今後の展開

- 本実証実験で得られた知見やネットワークを活用し、静岡県内の他地域や他事業者との連携を段階的に広げます。
- また、茶業をはじめとする地域産業の持続的な発展に向け、地域金融グループとして、生産者や事業者、行政、教育・研究機関などをつなぎ、新たな価値を共創する役割を果たします。

＜主な連携先（2026年9月時点）＞

- ・ 静岡県立大学 茶学総合研究センター
- ・ 富士茶農業協同組合
- ・ 一般財団法人アグリオープンイノベーション機構
- ・ 富士山麓地区生産者の方々

※上記のほかにも、地域事業者や関係機関等との連携を広げながら実証実験を進めます。



データ取得を行う富士山麓地区の茶畑